

Question

他院で治療したインプラントのトラブルを主訴に患者さんが来院しました。
どう対処すべきでしょうか？

質問者

(神奈川県 S.I. さん・67回)

Answer

はじめに

現在、インプラント治療は広く普及し大学病院やインプラントを専門とした開業医だけでなく、広く一般開業医でも行われているため、初診時に口腔内にインプラントが埋入されている患者さんも増加しています。また、インプラントは国内で流通しているもので30～50種類近くあり、国内だけでなく海外でインプラント治療を受けてくる患者さんもいます。互換性のあるメーカーも一部ありますが、基本的にメーカーごとに規格や形態は異なるため、部品を組み合わせることはできません。そのためになんらかの理由で上部構造を外す必要があっても、そのメーカーがどこのものかわからなければ対応できません。患者さんが継続して自院に通ってくれる保証はなく、予期せぬ転居などもあります。大切なことは患者さんにとって、期間、費用、侵襲等を含めてストレスなくインプラントを引き続き使用してもらうことです。

トラブルの種類

インプラントのトラブルは、上部構造のトラブルとインプラント周囲炎などのインプラント体のトラブルに大別されます。今回の Question のような再治療が必要な場合は上部構造のトラブルが多く、上部構造のセラミックの破折、脱離、固定用スクリューやアバットメントの緩みなど、上部構造に限局した比較的対処可能なトラブルが多いと思われます。

対処方法

インプラントの上部構造のトラブルへの対処のポイントは固定様式を把握することです。上部構造の固定様式は、セメント固定式かスクリュー固定式かで対応が変わります。

セラミックの破折の場合、程度にもよりますがCRにて修理することも可能です。しかし再度破折するリスクがあります。大きく破折している場合は、再製するしかありません。その場合は上部構造が外せないという再製または新製ができない場合があります。上部構造が仮着なのか合着なのかかわからない場合があります。セメントにて合着されていて

上部構造とアバットメントが一体化している場合、アバットメントの固定用スクリューが緩んでいても外すことが困難です。無理にやると固定用のスクリューが破折する場合があります。このような場合、咬合面からアクセスホールを形成し、スクリュー固定式に変えることで対応できる場合があります。しかし、アバットメントに角度付きのものを使用しているような場合、想定した位置にアクセスホールがでないこともあります。誤って内部のスクリューまで削ってしまうと再締結はできなくなってしまうので要注意です。

まとめ

緊急の症状を有する場合を除いて、まず行うべきこととしては前医に帰ることを勧めることです。その医院での保証がある場合もありますし、対応するための部品もあるからです。また、様々な理由で前医に行けない場合は、起こりうるリスクを説明した上で同意書を取り治療に入ることです。対処が困難と思われる場合は、大学病院等の専門機関に相談、もしくは紹介をすることをお勧めします。

インプラントメーカーが不明な場合、どこのメーカーか調べるためのエックス線所見を掲載した本や、インターネットサイトもあります。メーカーが特定できれば、そのメーカーに問い合わせ、システムの特徴について教えることが望ましいです。すべてのシステムを理解することは不可能だからこそ、真摯に向き合うことで患者さんの今後のQOLの向上に寄与できればと考えます。

インプラント患者が年々増加する中で、そのリハビリを必要としている患者さんも増加しています。歯科医師としてインプラント治療を行っていないからと切り捨ててではなく、貴院を頼って来院された患者さんに、より適切な対応ができるよう、対応策について御一考いただければ幸いです。

質問の回答者



せと むねつぐ
瀬戸 宗嗣

新潟病院 口腔インプラント科